

クリスマス
(12月25日)



子ども歳時記

クリスマス
リースを作ろう!



12月25日はイエス・キリストの誕生日(降誕日)とされ「キリスト(救い主)のミサ礼拝」という意味の「クリスマス」と呼ばれるようになりました。人々は永遠の命の象徴として、冬でも葉を落とさない常緑樹であるモミ、松、ヒイラギ、ヤドリギ、月樹などの木を飾ります。

また、サンタクロースに会えるフィンランドの「サンタクロース村」の郵便局には、150ヶ国以上から70万通以上のお手紙が届き、サンタクロースからの手紙も送られます。(ホームページ <http://santaclausvillage.jp/>)



リースは英語で“Wreath”と書き、「花輪・輪状のもの」という意味があります。さらに、「輪=永遠」から、新年の幸福を祈る飾りを表します。

クリスマスリースには、永遠の命の象徴として冬でも葉を落とさない常緑樹である柵(ヒイラギ)の実や葉をベースとして使うことが多いです。庭先にある冬の草花を添えたり、ドライフラワーを使ったりして楽しみましょう。リボンやベルは「魔除け」として、松ぼっくり、姫りんご、麦の穂、ブドウの蔓は栄養価の高い作物であることから「収穫や神への捧げもの」として、飾られます。

住環境コーディネーター
引地春美

子育て親育ちエッセンス

子育てサークル「やんちゃんこ」
代表 濱田 英世

暑かった夏が嘘のように、風が冷たい季節になりました。日本は四季がはっきりしているので、木々の様子も折々に楽しめるのがよいところですね。子どもたちにはぜひ、この自然の素晴らしいところを、五感(見る・聞く・触る・嗅ぐ・味わう)を使って感じさせてあげてほしいと思います。

前号で取り上げられた「メディアによる危機」のお話にもあったように、家にもってテレビ・ビデオ・ゲームばかりの時間を過ごすのではなく、今の季節をみんなで楽しむ工夫や機会をぜひ持ってみてください。

さて今号では、感染症などの病気から子どもを守るための情報について特集しています。

実際、病気から子どもたちを守る予防対策や医療体制は、さまざまな機関で充実しつつありますが、一番大切なのは、根本であるおうちの知識・対応であると、私は思っています。

実際にあったお話です。ある日、『つどいのひろば』にグズグズと不機嫌なお子さんを連れてお母さんが来られました。どうも、お母さんも疲れた様子だったので、「どうしたの?」と声をかけたところ、お母さんは「この子、少し熱があるのです。家に二人きりしているとグズグズ言っただけで私もイライラしてしまうので、ひろばに連れてきました。」と答えました。

このお母さんの気持ちは、よく分かります。家で二人きりで、機嫌が悪く、言うことを聞かなくて腹立たしくなった経験は、母親なら誰にでもあると思います。そのときの原因はいろいろあるでしょうし、頭ごなしに叱るよりも、子どもの心に寄り添いながら行う対応策も多々あります。

ただ、少しでも熱が出ているという体調不良の場合は、別問題です。この場合のグズグズにはもちろん、「しんどい、痛い、つらい」という明確な理由があります。そのときは、ほっとするひろばよりも何よりも、病院に連れて行ってあげなければなりません。体調の変化に気がつくのはいつも、近くにいる大人なので、グズグズの種類をしっかりと見分けて、正しい対処をしてあげてほしいと思います。

このようなこともありました。あるお母さんに「うちの子、何か手足にブツブツが出ているのよ、ほら見て。」と言われ、私は急いで病気に関する本を手にとり、どのような発疹が出ているのかを一緒に調べました。「ほかの人に感染する発疹かもしれないから、まずは病院に行きましょう。」そのお母さんは、すぐに状況を理解し、病院を受診してくださいました。

今までとは違う症状が出たとき、おうちの人の心配や不安は計り知れないものです。しかし、そのようなときは一番に、かかりつけのお医者さんに診てもらいましょう。また、気になる症状が出ているまま、公共の場所に行くことはタブーです。

周りへの配慮、咳やくしゃみが出る時のマナーなども、大人がきちんと気遣いをして行動していれば、子どもたちはその姿を自然と身につけていきます。これからの季節、外から帰ってきた時の手洗い・うがいの習慣も、毎日の積み重ねが当たり前の行動へと変わっていくことでしょう。

どうか皆さん、寒い冬を元気に乗り越えてください。

